

ながぬま

謹賀新年



新年のご挨拶



代表理事組合長 柴田 佳夫

新年あけましておめでとうございます。組合員皆さまにおかれましては、ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より農協事業に対しまして、特段のご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、昨年は能登半島地震や線状降水帯による豪雨災害も重なり甚大な災害に見舞われている被災地の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。早期の復旧・復興を願うところであります。

この様に近年、大きな気象・自然災害が起きる中、長沼農業については、幸いにして大きな災害はなかったものの、昨年も最高気温36・3度を記録するなど、年々気象の変化が大きくなってきております。

このような中、令和6年度の春先の融雪は平

年より4日遅くなりましたが、気温は平年を上回り降水量も7月上旬までは平年並みに経過し順調に農作業は進められました。その後、7月下旬と8月下旬には、一時期降水量も多くなりましたが、総じて多くの作物が順調に生育・推移し、昨年の実績を大きく上まわる作柄を収めることが出来ました。

その中で、水稲については、作況指数「南空知103」（北海道103）でやや良となり、米の館の受入は計画以上の集荷をみたところであります。また、品質面ではタンパク値も昨年より低く「ゆめびりか」の基準品（低タンパク7.4以下）は55%となる状況であります。

そのような中、米の価格は一昨年の猛暑による高温障害で精米歩留まりが減少したこと、インバウンドなど人流の回復による消費が堅調で

あったこと、さらに家庭内における災害用備蓄の影響などから、米の需給環境が逼迫し新米の価格は再生産可能な価格となってきました。小麦は施設受入計画対比120・5%となり、秋まき小麦の粗原料反収で10・8俵、製品反収で9.8俵となりました。全般に生育が進み成熟期も早まりましたが、一穂粒数、千重粒が平年より多かつたことから計画以上の収穫が達成されました。

大豆も施設受入計画対比128%で、4928トンの受入れをいたしました。降雨・高温の影響を心配しましたが概ね生育も順調に進み、自主検査では、品位Ⅰ（1〜2等）が約4割、品位Ⅱ（3等）特定加工が約6割の集荷状況であります。

野菜については、全国的な生産面積の減少や観光需要の増加により供給不足気味の状況が続いております。このような状況もあり、トマトは7億円を超える販売額、プロッコリーは11億円を超える過去最高額の販売額となる見込みです。

生産者皆様の日頃の生産に対するご努力に敬意と感謝を表すところであります。

農畜産物全体の販売額については、計画を大きく上回る約97億円を見込んでおります。これもひとえに組合員皆様の農協事業への結集が導いた賜物であり、ここに深く感謝を申し上げます。

昨年11月には、第31回JA北海道大会が開催

されました。この大会は、組織・事業の強化を図るべく、JAグループ北海道の基本方針を確認するため、3カ年毎に開催しております。今大会では、昨年5月に「食料・農業・農村基本法」が25年ぶりに改正され、食料安全保障を基本理念として位置付け、その定義を「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入力できる状態」とし、安全保障の確保を明記するとともに、環境と調和のとれた食料システムの確立や農業の持続的な展開、農村の振興が規定されました。このような中、JA北海道大会では、食料安全保障の強化と農業所得の確保、農業分野における環境負担軽減への対応、人口減少局面下の人材の確保等、農業・JAを取巻く環境や今後の展望を踏まえ、JAグループ北海道が一丸となって実践すべき事項について決議されました。今後、JAながめまもJA北海道大会の決議を踏まえ、「持続可能な農業の確立」に向け行動変容を加速させ取組んでまいります。

また、組合員の信頼に応えるべく所得環境を最優先に考えながら、農業の価値向上に向けて、事業を推進してまいりますので、組合員皆様には尚一層のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本年が災害もなく豊穡の秋が迎えられ明るい年となることと、組合員皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈りし年頭のご挨拶とさせていただきます。

迎春

二〇二五年元旦

ながめま農業協同組合

代表理事組合長	柴田 佳夫
専務理事	服部 正幸
常務理事	岩崎 徹
総務経済対策委員長	健名 和哉
営農委員長	福島 幸二
総務経済対策副委員長	越路 昌隆
営農副委員長	石尾 大介
理事	大橋 敏央
理事	鳥井 昌幸
理事	十河 義満
理事	大崎 貴幸
理事	吉田 満
理事	東山 哲智

代表 監事	三好 忠和
常勤 監事	松本 豊
監事	村上 芳宏
監事	中原 久勝
管理部長	大和田 健
金融部長	山村 範人
営農部長	波川 浩己
販売部長	高嶋 良幸
資材部長	富澤 和幸
管理部次長	仁和 貴也
金融部次長	大屋 寛
金融部次長	氏家 真吾
営農部次長	今村 大樹
販売部次長	山本 大介
営農部次長	村井 忠夫
営農部次長	阿部 秀幸
外職員	一同

令和7年の年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井 功

新年あけましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては、日々営農にさらに邁進されておられることと存じます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業については、春先から天候に恵まれ、各作物の生育は全般的に平年よりも早く進んでおりました。しかしながら、夏場は猛暑・豪雨による記録的な高温多湿の影響を受け、各作物等の収量および品質に影響が出た年となりました。

近年、気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止

まりが農業経営に甚大な影響を与えており、農業・農村を取巻く環境は一段と厳しさを増しております。

昨年には、四半世紀ぶりに食料・農業・農村基本法が改正され、現状に即した基本理念の見直しと、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」等の実現が盛り込まれました。政府は、初動5年間を農業構造転換集中対策期間と位置づけ、施策を集中的に実行するとともに、今年3月に食料・農業・農村基本計画を策定するべく引き続き検討を進めております。

JAグループ北海道としては、食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立のために、農地の確保および適正利用の強化、食料・自給飼料等の安定生産・供給と環境負荷軽減の両立に取組みながら、それを後押しする力強い

政策支援を求めていくことが重要と考えております。

また、昨年は第31回JA北海道大会が開催され、「食料安全保障の強化と持続可能な北海道農業の確立」、「JAの組織基盤の強化と健全な経営基盤の確立」、「アグリアクション北海道の推進による農業・食・JAへの理解醸成」の3つの議案を決議いたしました。

今後、議案の達成に向けて、組合員・JA・連合会が一丸となって、生産現場の行動変容と組合員の意思結集による農政運動、JAの経営管理の高度化やデジタル化の推進による業務効率化・生産性向上に取組んでいかなければなりません。

さらに、消費者の皆様には、JAグループ北海道統一の情報発信のプラットフォームである「アグリアクション北海道」を浸透させるとともに、効果的な情報発信により、今まで以上に農業食・JAに対する理解を深めていただき、JAグループが提唱する「国産国産」の認知を広めてまいりましょう。

結びになりますが、本年は巳年です。巳（へビ）は冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があると言われ、転じて、巳年は力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年だと言われています。

この謂われにあやかり、本年が北海道農業の飛躍の起首となること、皆様のご多幸とご健勝をご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



空知農業改良普及センター
空知南西部支所

支所長 辻 恭子

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、ながめ農業協同組合の組合員とご家族のみなさまに謹んで新年のお慶びを申し上げます。

また、平素より農業改良普及センターの活動に対し、ご理解とご協力いただいておりますことに、感謝を申し上げます。

せっかくの機会をいただきましたので、令和6年の振り返りと令和7年に向けた取組について、少しご説明させていただきます。

昨年は融雪期が平年より4日遅く、その後は日照時間も多く、気温も高い日が続き、春作業は概ね順調に進みました。5月下旬から6月上旬の低温と日照不足により一時生育は停滞しま

したが、それ以降は高温で経過し、局所的な豪雨はあったものの、大きな災害もなく順調に生育は進みました。

水稲では高温で経過しましたが、整粒割合は高く、白未熟粒や胴割粒の発生も少なく品質は良好であり収量は平年対比104（南空知）となりました。

秋まき小麦では病害の発生は比較的少なく、病害虫防除も適切に行われ、概ね平年並の収量・品質を得ることができました。

大豆については、しわ粒、裂皮粒の発生が一部発生したものの収量は平年対比105（南空知）となりました。

園芸作物については、たまねぎの収量が平

年対比103（南空知）とやや多く、ブロッコリー、トマトについては生理障害や病害虫被害も少なく品質・収量は良好であり、ともに令和5年度の販売額を上回りました。

JAながめ全体としては令和5年の販売額を超える結果を残したことは地域一丸で取組んできた結果であると高く評価されるべきと考えます。これは厳しい気象条件下でも、日々のたゆまぬ努力や基本技術の励行と柔軟な対応によってもたらされた結果であり、生産者やながめ農業協同組合役職員のみなさま、関係者各位の尽力に敬意を申し上げます。

農業情勢に目を向けると、昨年は「食料・農業・農村基本法」改正法が5月に成立、米の価格高騰、長引く資材高騰など、変化の大きい年でもありました。さらに水田活用の直接支払交付金など農業政策の先行きが予想できない状況ではあります。空知南西部地域の優位性や潜在力を最大限に活用することで、この局面を乗り越えていけるものと考えております。

普及センターも、気象変動に対応する栽培管理や国内外の情勢からの取組課題を的確に捉え、組合員の皆様及び関係機関の方々と一体となり共に考え、生産振興と地域振興を支援してまいります。皆様の一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして健康で希望に満ちた良き年となり、豊穡の年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

営農集団協議会 視察研修

11月22日、営農集団協議会視察研修が俱知安町のJAようていにて営農集団員8名参加のもと開催されました。



JAようてい上吹越販売企画課長

からJAようていの取組みや、外国人技能実習生を取り入れた経緯について説明いただき、京極町にある馬鈴しょ集出荷選別貯蔵施設では外国人技能実習生による共選の様子や近隣にある宿舎を見学しました。真田会長から「長沼町においても外国人技能実習生を積極的に取り入れる機会が出来たら嬉しい。」とお言葉をいただきました。



「地区懇談会」を 開催



12月2日から4日の3日間、地区懇談会が開催されました。

農協からは、令和7年度事業計画、農業振興計画の概要などを説明させていただきました。参加された組合員、青年部、女性部の方々から農協事業へのご質問やご意見をいただきました。



今後も組合員の農業所得の増大に向け、農協経営の健全性や組合員、地域の方々に安心してご利用いただける組合づくりに取組んでまいります。

女性部活動報告

◆家庭介護教室WEB研修

11月25日、部員19名が家庭介護教室WEB研修に参加しました。本研修は「JA健康寿命100歳プロジェクト」の一環として、高齢化の重要課題である認知症高齢者とその家族への支援について学ぶ内容で、俱知安厚生病院の看護師による講義が行われました。参加者は在宅介護や医療との関わり、認知症家族の在宅看取りに関する話に関心を持ちながら研修に取り組んでいました。



◆JA常勤役員と女性部役員との意見交換会開催

11月26日、常勤役員と女性部役員の意見交換会が行われました。始めに女性部役員から寄せられたJAに対するの意見や要望等の返答をいただいた後、女性部役員よりJA運営や女性参画に関する質問や意見が出され、有意義な意見交換会となりました。



◆フレッシュミズ秋季研修旅行

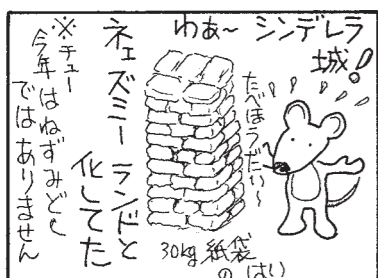
11月28日〜29日にかけて、フレッシュミズ部会は秋季研修旅行を実施し、部員15名が参加しました。



今年度の研修先は小樽市と札幌市です。小樽市ではサンドプラスト体験を行い、その後市内散策を楽しみ、札幌市では「雪印メグミルク」の工場を見学し、身近な商品の製造工程や歴史について学びました。

参加者からは、「普段手に取る商品がどのように作られているのかわかることができ、とても勉強になった」といった声がかかれ、有意義な時間を共有することができました。

1対1



『営農計画樹立』は 家族ぐるみで!

本年も営農計画を樹立する時期となりました。この時期にじっくりと営農計画に取組み基本方針を立てることが最も重要であり、また、各作物の生産性向上や気象条件などによる危険分散することも考慮し、作付品目などを計画する必要があります。

今年度の営農計画書作成にあたっては、前年度の実績を踏まえ、肥料・農薬等の生産資材の効率的利用、コスト低減と経費の節減に努め家族ぐるみで実行可能な計画を樹立し、経営の発展に努めていただきたいと思います。

なお、営農計画書の提出期限は2月10日までとなっておりますので、期日を厳守し提出していただきますようお願い申し上げます。

※営農計画書をパソコン入力希望される方は、お手持ちのUSBメモリを持参のうえ本所経営相談課、北長沼支所、舞鶴事業所までお願いいたします。

お問い合わせ
金融部 経営相談課 TEL 88 - 2229

JA 農業関係資金のご紹介

JAバンク利子補給の負担軽減率がより充実し、活用しやすくなりました!

補給率 **現行** 最大 **0.8%** → **見直し後** 最大 **1.0%**

補給期間 **現行** 最長3年間 → **見直し後** 最長5年間

JAフルスペックローンまたはJA農業経営ステップアップローンの活用でJAバンク利子補給を活用すると

金利が (金利 1.9% - 利子補給 1.0%) → **変動 0.9%**

※金利は12月10日現在となります。

※金利は長期プライムレートが基準となっておりますので、長プラ変更により金利が変更となる場合があります。

※JAバンク利子補給とは

- ・借入金額100万円以上が対象
- ・対象資金はJAフルスペックローン、JA農業経営ステップアップローン
- ・農地取得、借換資金としても活用可能
- ・令和7年1月1日から令和9年12月31日までの新規実行案件が対象

※JAバンク利子補給リミテッドは、当初予定通り令和6年12月末の新規実行分をもって終了となりました。

詳しくは金融部融資課 (TEL88-2224) までお気軽にご相談ください!



地域農業の担い手、
JA青年組織盟友を
応援する雑誌



年2回の別冊付録は一つのテーマを
掘り下げ、わかりやすく解説

お問い合わせ 営農企画課 Tel 88-2232

JAへの就職希望者100%就職 (令和5年度実績)

令和7年度 第3回学生募集

- 定員40名 ●男女共学 ●1カ年 ●寮完備(個室) ●通学制開始
- 受験資格: 満27歳未満(令和6年4月1日現在) / 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日: 令和7年2月2日(日)
- 願書受付: 令和7年1月6日(月) ~ 1月24日(金) 消印有効
- オープンキャンパス 随時開催中

JAグループ職員養成校

JAカレッジ

一般財団法人 北海道農業協同組合学校
〒069-0834 江別市文京台東町43-1
☎0120-918-417

令和7年度より
通学制開始

JAカレッジ 検索

理事会報告 - 第12回 -

《令和6年12月16日開催》

[議 案]

- 第1号 第3四半期自治監査講評
- 第2号 組合と理事の契約承認について
- 第3号 令和7年度営農計画に係る農産物価格の設定について
- 第4号 事業推進員会議の開催について
- 第5号 令和6年度決算見込みについて
- 第6号 固定資産の発注について
- 第7号 組合員の出資減口について
- 第8号 組合員の出資持分譲渡について
- 第9号 令和7年度内部監査計画の策定について
- 第10号 年末賞与の支給について

[報告事項]

1. 会議・行事報告について
2. 組合員の加入及び脱退の状況について
3. 利益相反取引の実行報告について
4. その他

以上、すべての議案について審議し原案どおり承認されました。

食農のページがもっと楽しく

食農教育の知識がいっぱいつまっています。

購読のお申し込みはJAへ



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

今月の組合員数 (前月比)

組 合 員	1,493名(-9)
正 組 合 員	775名(-6)
准 組 合 員	718名(-3)
正組合員戸数	592戸(-4)

農協の動き 11/26~12/16

11月

26日	女性部生活懇談会	於 農 協
27日	粕バラ施設運営協議会	於 農 協
27日	事業推進員会議	於 農 協
28日	FAMO長沼採用辞令交付	於 農 協
28日	空知管内農協組合長会議	於 空知農業会館

12月

2~4日	地区懇談会	於 行政区会館・農協
6日	役員改選地区代表者会議	於 農 協
16日	総務経済対策委員会	於 農 協
16日	理事会	於 農 協
16日	監事会	於 農 協

Aコープながめま店



初売り

2025

1月4日

あさ
10時
から



JA だより ながめま

2025. 1月号 No. 371

〒069-1393 夕張郡長沼町銀座北1丁目5番19号
発行/ながめま農業協同組合 営農部営農企画課
TEL/0123-88-2226 FAX/0123-88-4113
URL/http://www.ja-naganuma.or.jp